

# 令和7年度 学校自己評価システムシート(大川学園高等学校・大川学園高等専修学校)

目指す学校像	校訓「自律 協調 奉仕」のもと、一人一人の生徒を大切に、社会に貢献する人材を育てる学校
重点目標	<p>全日制とほとんど変わらない通信制の特長を生かし、「顔晴れ(がんばれ)」を合言葉に、「学び直し」ができる学校づくり</p> <p>①求める生徒像を明確にし、定員確保に向けた募集活動を行う</p> <p>②情報を共有し、組織として統一した生徒指導を実践するとともに、進路実現のために人格の完成を目指す</p> <p>③生徒一人一人の学力向上をはかり、専門性を高める教育活動を推進する</p>

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※ 学校関係者評価実施日は、最終回の学校関係者評価委員会会議を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者評価委員	5名
	事務局(教職員)	4名

年度目標 令和7年6月24日実施		年度評価 令和7年12月に実施		学校関係者評価		
番号	現状と課題(昨年度の評価から)	P(具体的方策)及びD(実行)	C(評価)	達成度	A(次年度への課題と改善策)	
1	<p><b>生徒募集</b></p> <p>○本校は広域から狭域の通信制高校に申請認可された。募集域は埼玉県と東京都在住者に限定される。生徒数が減少しているという地域性だけの問題ではないが、私立高校の生命線ともいべき生徒募集に大きな課題を残した。今年度充足率は35%と厳しい数字をみた。そして、定員割れが続いている福祉科は、令和8年度生より募集停止となった。大川学園にとって、高等学校の存続をかけた年になる。求める生徒像を明確にするとともに、本校の求めている生徒を広く周知していくことが急務である。また、普通科のみの定員80名募集という点で、本校が他校に比して選ばれる学校になる方法を真剣に、そして早急に考える必要がある。</p> <p>◎全教職員が、今年度こそ命運をかけた勝負の年になるという覚悟を持って行動にあたるかどうか大切になってくる。今までの募集活動や広報活動とは違った視点や挑戦が必要である。外部に対して今まで以上の活動をするともに、本校の教育活動が、高等学校として中学生や、中学生を持つ保護者に魅力的かどうか大切である。いわゆる内と外の充実の真価が問われる。本校でなくては学ぶことができない高等学校教育を実践する必要がある。支援を必要とする生徒のための高等学校か、不登校の生徒のための高等学校か、勉強はできないが一生懸命学ぶ生徒のための学校か、又はその複合型なのかをはっきりさせる決断に迫られている。また、その点については教員の合意が絶対条件である。</p>	<p>①求める生徒像を明確にし、本校の教育方針を正しく伝えていく必要がある。</p> <p>②募集定員80名を達成することは命題である。昨年度より上昇して満足するのではなく、必ず達成する必要がある。</p> <p>③普通科の選択科目に多くある体験的な学習を学校説明会で行っていく。</p> <p>④他の通信制と違い、グラウンドを持つ通信制高等学校をアピールする。</p> <p>⑤SNSを活用しているが、年間を通して発信し続ける必要がある。</p> <p>⑥教員が製作していたパンフレットを業者に発注した。また、学校説明会参加を促す広報用チラシを頻繁に配布し、中学校訪問の回数を増やすとともに学校説明会参加者の増加に努める。</p> <p>⑦学校説明会と個別相談会と放課後相談会を年間に14回以上実施する。</p> <p>⑧飯能新緑ツーデーマーチにボランティア参加し、地域貢献することで広報活動を行う。</p>	<p>①教育改革を進めている。自律・協調・奉仕という学校設立の精神に立ち返る必要がある。</p> <p>②2/1現在で定員の56.1%が入学予定者である。定員の確保は達成できなかった。</p> <p>③特色ある選択科目を学校説明会で体験実施した。一定の効果はあったと思われる。</p> <p>④学校説明会等で本校のグラウンドを含めた施設をアピールできた。</p> <p>⑤担当者がSNSを利用して情報発信を行ってきた。学校説明会等に効果があった。</p> <p>⑥パンフレットを業者発注し、広報用チラシ配布の中学校訪問を増やした。その結果もあり、年内の学校説明会等の参加者が7.18%増加した。</p> <p>⑦学校説明会と個別相談会と放課後相談会を年間21回実施している。</p> <p>⑧飯能新緑ツーデーマーチに約30名の生徒と教職員がボランティア参加し、地域に貢献した。</p>	C	<p>・私立学校の生命線は生徒募集にある。その募集活動の成果は不十分であった。</p> <p>・数多くの学校説明会や個別相談会、放課後相談会等の在り方や回数、そして中学校訪問の方法等再検討が必要である。</p> <p>・新たな体制でのパンフレットやホームページ等生徒募集に効果のある方法を学園本部が中心となって進めている。</p> <p>・学校説明会参加者を増やすために、何が有効な手段なのかを考え、具体的に打ち出していく必要がある。</p> <p>・個別相談では、対応する教職員の面談力を高める必要がある。</p> <p>・SNSを利用した広報活動も一層充実させる。</p>	<p>・入学者数が昨年より増加したことは良かった。</p> <p>・来年度実施しようとしている教育改革が人数に結びつけば良いが、教育改革との相関関係を考えなければならない。</p> <p>・生徒数と学校経営の関係はどのような状態か？</p> <p>・学び直しに期待していて本校を選んでいる生徒や保護者は多い。学び直しの方法を考えてほしい。</p> <p>・協働的な学びを通じて生徒が自ら学習している姿を外に見せるのはインパクトがあって広報的にも効果的ではないだろうか。</p> <p>・学校に足を運んでもらい、最初の印象や学校の良さを感じてもらおうことが大切である。学校説明会や多くの場で教員や生徒の姿を見てもらおう機会を増やす。</p>
2	<p><b>生徒指導と進路指導</b></p> <p>○生徒指導は、全教職員が統一して行うという従来から踏襲してきた方向性には変わりはない。年間を通して厳しくも温かい生徒指導を行っている。問題行動に対応する消極的生徒指導から、問題行動を発生させない積極的生徒指導を実践していく。また、その雰囲気づくりに努める必要がある。幸い、大きな問題行動は近年発生していない。生徒の登校の様子、服装、挨拶など一定の評価をいただいている。教員ならではの視点で、生徒の抱える問題や環境の変化を早めに読み取っていきたい。進路については、進路決定率100%を毎年目指す。昨年度は達成を見ている。しかし、その進路が生徒にとって本当に正しいかどうかという進路適性率を高めていく必要がある。進学先で中途退学の報告を聞いている。生徒の努力不足か、進路決定時に問題があったのかを検証していないと、高等学校としての進路指導としては落第であり、広報活動にも影響を及ぼす。</p> <p>◎全教職員が統一した指導を行っていく必要がある。大事の前の小事を見逃すことがないように、教員としての専門性を十分に発揮することが大切である。また、本校生徒の場合、寄り添う指導が必要であり、保護者との連携も必要になってくる。高等学校の進路指導は生徒保護者が主体的に決めていくものであるが、教員も多くの情報を持ち、必要に応じて情報提供していくことが大切である。また、本人の適性をよく理解し、不本意な中途退学や中途退職をさせない指導も必要である。</p>	<p>①校内巡回を徹底し、5分前着席100%を目指す。</p> <p>②生徒部長の話は、始業式・終業式のみとした。全校集会との区別を明確にした。</p> <p>③日常からの指導により、昨年度6件だった生徒指導案件を0件にする。</p> <p>④遅刻者数を昨年より50%減少させる。</p> <p>⑤挨拶の徹底を図る。</p> <p>⑥3年間を見据えた進路指導を行う。</p> <p>⑦進路決定率・進路満足度ともに100%を目指す。</p> <p>⑧就職求人件数10%増を目指す。</p> <p>⑨家庭との連絡を密にとり、スムーズな進路指導を行う。</p>	<p>①校内巡回の徹底と5分前着席は達成できず課題を残した。</p> <p>②始業式・終業式のみとした生徒部長の話は、効果がなかった。全教職員から日常的に伝えるべきであった。</p> <p>③生徒指導案件は、昨年を下回り2件であった。</p> <p>④生徒数が少ないこともあり、遅刻者延べ760人から690人と約9.2%減少した。</p> <p>⑤挨拶の徹底を図った。数字で表現できないが、一定の効果はあったと思われる。</p> <p>⑥⑦年内に進路決定率100%を達成した。年明けの大学一般受験挑戦者を増やすことも必要である。また、進学後の退学率を調査し、状況を把握・改善する必要がある。</p> <p>⑧昨年度の1218件から1797件と47.5%増であった。</p> <p>⑨生徒個々の適性に合った進路指導を実践し、中退率、退職率を減少させる必要がある。</p>	B	<p>・校内巡回やチャイム着席が徹底できなかった。生徒部の在り方に大きな課題を残してしまった。再度、大きな事件事故を起こさない積極的な生徒指導を全教職員で考える必要がある。</p> <p>・全校集会での生徒部長の話をなくしたが、SHRの担任の指導を有効活用したい。</p> <p>・年内に進路決定することを再考し、一般受験への挑戦をする努力が必要である。</p> <p>・進路早期決定と進学先・就職先での中退率や退職率を考える機会が必要である。</p> <p>・就職者のために、求人件数を新たに増やす必要がある。</p> <p>・家庭との連絡を密にする。</p>	<p>・一般受験なしでの進路決定率100%は痛し痒しである。</p> <p>・部活動に力を入れるのなら、挨拶や礼儀が大切であり、人間的な教育が大切である。</p> <p>・生徒数の減少は大川学園医療福祉専門学校への進学者数にも影響している。</p> <p>・学力の面だけでなく、社会で通用する人格の育成に努めてほしい。</p> <p>・通信制高校なので、通信制大学への進学コースをつくってはどうか。</p> <p>・進学先や就職先で続いているのか、調査する必要がある。それが、進路指導が成功したかどうかの判断になる。生徒の適性や能力、興味をしっかりと理解していたかどうかになるし、学校として正しい進路指導と言えるのではないだろうか。</p>
3	<p><b>学習指導</b></p> <p>○本校生徒は学力的に高くない、という教員の考え方を変える必要がある。生徒は高度な内容がないと満足しない。それは保護者も同じである。その内容をわかるように指導するのが、教員の責務である。また、学力差はグループ学習を取り入れることで解消が可能である。これは、孤立させないという面を持っている。一定数の進学者がいる以上、やはり授業の重要度は高い。この授業の充実が募集に結びついているという考え方が大切である。生徒は授業の満足度を求めている。昨年度のステップアップ講座は参加者が少なく、本当の学び直しになっていなかった。今年度、水曜日をブラッシュアップデーとし、学び直しと進学補習の両方を学べるようにした。</p> <p>◎水曜日の「ブラッシュアップデー」は、普通科の全生徒が対象である。午前中は学び直しを中心に、午後は進学に対応できる指導を行っている。3年間の修得単位数が多い福祉科は技能連携制度により、専門性を高めることに特化した学習を実践している。生徒の学び直し、進学補習ともに教職員のさらなる研修が求められる。</p>	<p>①高校として生徒の求める高度な授業を提供する。そのために教員は日々研修を行う。</p> <p>②生徒の授業満足度80%以上を目指す。</p> <p>③大学一般受験者を昨年度の0名から5名に増やす。</p> <p>④市内外ボランティア活動を一層活発に行う。</p> <p>⑤大学進学や補習授業を個別で実施していく。</p> <p>⑥通信制の特長を生かし、全生徒が卒業できるように補習体制等を充実させる。</p> <p>⑦今年度開始したブラッシュアップデーを一層充実させる。必要があれば、改善を加えて本校の魅力ある教育カリキュラムの一つにする</p> <p>⑧個別最適の学びを実現していく。</p>	<p>①高校生が求める高度な授業を行うために、個別最適化の教育改革を実践している。</p> <p>②授業満足度は80%は達成している。さらに個別最適化により満足度を高めていく。</p> <p>③大学の一般受験者は昨年度同様0名であった。</p> <p>④ボランティア部を中心に活動した。市内外から評価をいただいている。</p> <p>⑤教育改革を進めている。</p> <p>⑥通信制の課程に特化した補習体制の結果、卒業に必要な単位認定がなされている。</p> <p>⑦課題を見つながら、生徒や保護者の要求に応えるカリキュラムにしていく。</p> <p>⑧来年度の本格的な実施を目指して、準備と実行を行っている。</p>	B	<p>・1年間実施した学び直し(ブラッシュアップ)のカリキュラムを検討する必要がある。</p> <p>・パンフレットやホームページに掲載できるよう学習体系を構築する。</p> <p>・個別最適な学びを確立していく。</p> <p>・ボランティア活動を部活動以外でも実践できるよう工夫していく。</p> <p>・通信制課程に則った教育活動を実践していく。</p> <p>・教員間の差が現れている。全教職員が生徒に寄り添った教育活動を行っていく必要がある。また、保護者にも情報提供できるシステム作りが必要である。</p>	<p>・AIだけではなく対面の学習は大切だと思う。</p> <p>・ボランティア活動は地域で活躍している。もっと実施すべきである。</p> <p>・学習改革の責任者は生徒である、ということを理解すべき。</p> <p>・生徒は学習の全体像をとらえて学習しているか。一年間を通しての理解のさせ方が問題である。</p> <p>・学校が用意している内容を学ぶのではなく、生徒自らカリキュラムを構築できるようにする。</p> <p>・人数が少ないなら一人一人を深く見ることができる。</p> <p>・ブラッシュアップが生徒に不評である。来年度は考えてほしい。協働学習を導入しても良いと思う。</p> <p>・難しいところから学ぶという逆の学習方法もあるのではないかと。</p> <p>・分かりましたか？ではなく、分からない所を言ってもらった方が良いのではないかと。</p> <p>・個々の生徒が学ぶ時間割を作成し、生徒が理解することで変化できるのではないかと。</p>